



SHIMANE  
University

島根大学広報誌 広報しまだい

# Shimadai

2014.7 vol.21



特集 ■ 学びは楽しい

## より「開かれた大学」 を目指して



話題ゾクゾク、興味モリモリ。

島大

検索



# より「開かれた大学」を目指して

## ■地域コミュニティの中核として 広く市民に開かれた学びの場

「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指し、様々な取り組みを行っている島根大学。その一つに「地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進」があります。

これは本学の教育・学習、研究、医療を通して、学術研究の成果を広く社会に還元する、ということ。その取り組みとして「生涯教育推進センター」に加えて今年度から「市民パスポート会員制度」を新設

しました。

どちらも生涯学習社会に対応した取り組みとして、地域社会の発展に寄与すると同時に、市民と学生の交流など、本学の活性化にも生かされています。その取り組みについてご紹介します。

## ■国立大初 市民パスポート 会員制度

島根大学では、新しい学びなおしのスタイルとして、本年度から社会人のための「市民パスポート会員制度」をスタートさせました。

この制度は、年会費五千元でどなたでも入会でき、大学の様々なサービスを一年間利用できるというもの（サービス内容は本誌裏表紙参照）。退職後の60代以上の方を中心に、現在約230名の方が会員登録されています。

市民パスポート会員の最大の魅力は、正規の授業を地域の方に開放する「公開授業」に無料で参加できること。

「人気が高いのは、やはり出雲文化学のような歴史系の授業。医療系や理工系の授業は特別な知識が必要となるため、市民の皆さまが受講されるには内容的に難しいところがあります。しかし今後は身近な医療の知識を学べるような公開授業も増やしていきたいですね」（塩飽）。



### 生涯教育 推進センター

「技術習得系」  
「資格取得系」の  
公開講座など

### 市民パスポート 会員制度

公開授業・  
「知識習得系」の  
公開講座など

#### ■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ① 法文学部 メンキン・スコット准教授 ..... 7
- ② 医学部 並河 徹教授 ..... 9
- ③ 総合理工学研究科 汪 発武教授 ..... 11

#### ■COC事業レポート ..... 13

#### ■しまだイトピックス ..... 15

#### ■広島フラワーフェスティバルで島根大学をアピール ..... 17

#### ■シリーズ企画 総合医を目指して ..... 19

#### ■海を越えた島大生 ..... 20

#### ■キャンパスチェック ..... 21

#### ■学生プレス研究会 ..... 23

#### ■サークル紹介 ..... 25

準硬式野球部／ガーデニングクラブ

#### ■島根スサノオマジック紹介・ 島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント ..... 26

「市民パスポート会員制度」について伺いました

島根大学理事(企画・総務担当) /  
副学長 塩飽邦憲



18歳未満の人口  
が減少しつつあ  
る今、大学は若  
い人の教育以外  
にも、その在り  
方を見直す必要

があります。諸外国では定年退職した  
60歳以上の学生が多く見られます。「市  
民パスポート会員制度」は、地域を基盤  
に社会人の趣味と実益を兼ねた学び直  
しに大学が対応するというものです。ぜ  
ひ積極的にご活用いただき、学生との「  
コミュニケーション」も楽しんでください。



さらにその他の特典として、附属  
図書館の利用があります。ここ  
は、一般の図書館ではなかなかお  
目にかかれない歴史的な蔵書が多  
数あるのがポイント。  
その他にも野球場やテニスコート  
などの大学施設の利用や、国際交  
流や学生との交流などのイベントへ  
の無料参加が可能。  
「地域の皆さまに、とにかくもつ  
と気軽に大学に足を運んでいただ  
きたい。市民パスポートを使うこと  
で、大学のかしこまったイメージを  
少しでも払拭できればうれしいで  
す」(塩飽)。

公開授業「出雲文化学」受講生&講師インタビュー

受講者の声

公開授業で、自分の世界が広がりました



市民パスポート会員  
松尾勝美さん

9年前の退職を機に、島根大学の公開授業を初  
めて受講し、それ以来ずっと通い続けています。  
とにかく知ることが楽しく、何歳になっても「知  
りたい」と思う気持ちは衰えません。しかも、自分  
より年上の方も受講されており、皆さんの向学心  
にはいつも良い刺激を受けています。  
ちなみに好きな科目は、古代史や世界史など  
の歴史関係。同じ科目でも講師によって視点が異  
なっているのも興味深いです。  
公開授業はとても良い取り組みなので、今後も  
受講したいです。先生によっては学習旅行の企画  
もあるので、それも楽しみにしています。

講師の声

開かれた島根大学の新たな取り組みに期待



島根県神社庁 参事  
万九千神社 宮司  
錦田剛志さん

神社庁の研修所をはじめ、様々な場所で講義を  
する機会が多いのですが、島根大学の公開授業  
で講師を務めるのは今回が初めて。しかも参加者  
の年代が幅広く、ドキドキワクワクの体験でした。  
社会人の方に講義をするのは、非常に刺激的。  
特に生涯学習の意欲がある方のまなざしには、私  
自身が教わることも多いです。  
今回の公開授業のように、大学が地域に広く開  
かれていくことは、文化の継承や豊かな社会の実  
現のためにも価値ある取り組みだと思います。講  
義の分野も広いので、私も受講したいぐらい。も  
ちろん、また講師としても参加してみたいです。

2014.7 vol.21  
Shimadai  
島根大学広報誌  
広報しまだい

■〈特集1〉学びは楽しい  
より「開かれた大学」を目指して…………… 1

■〈特集2〉島根大学のいま  
島根大学学位授与式(卒業式)・  
入学式レポート…………… 5

■しまだいNEWS…………… 6



## ”市民と学生が気軽に交流できる” 木の香り漂う「学生市民交流ハウス」

市民バスポート会員が利用できる施設のひとつ「学生市民交流ハウス」は、本学の学生と地域の方々との



今年の4月に新設された学生市民交流ハウス

交流の場として利用するために造られたものです。

実はこの建物、COC事業の一環として、総合理工学部の学生有志5名によって設計されたもの。市内の設計事務所の協力を仰ぎながら2013年夏頃から設計に取りかかり、試行錯誤を繰り返しながら今春、無事に完成しました。

愛称である『FLAT』は、「市民も教員も学生も、全てフラットな関係でいられる場所」という意味の他に、平屋造りであること、そして誰にでもご利用いただける様にバリアフリーに配慮したことから名付けられたもの。

これまでに音楽会や読書会などを開催しましたが、学生にとって市民の方との交流は「社会を学ぶ」という意味で、自分を成長させる良い刺激になりそうです。

## 開かれた大学としての中心的機能を果たす 「生涯教育推進センター」

前述の公開授業等の「知識の習得」に加え、実生活に活かせる「実用知識・技術の習得」「資格の取得」をサポートするのが「生涯教育推

進センター」です。

生涯教育推進センターは、生涯学習社会に対応した大学開放のための専門機関として、平成5年4月に

### 学生の声

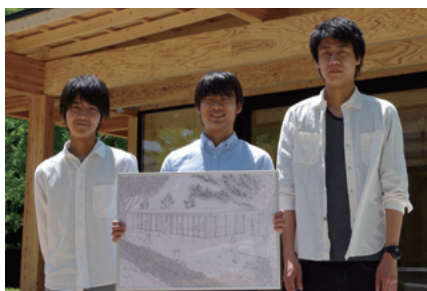
## 自分たちの手で設計 愛着のある「学生市民交流ハウス」

設計の際に気を付けたのは、外からも内からも見えるオープンな構造であることと、機能性を重視すること。縮尺模型を何度も作り、時にはメンバーみんなが意見をぶつけ合い、徹夜もしながら設計を進めました。

さらには民間企業からご提供いただける建材を使用するという前提条件があったため、素材そのものの質感を生かせるような心がけました。

日頃、授業で設計をしたり模型を作ることはあっても、それが建築物になることはないのが、今回こうして実際に建物が完成したことが本当に嬉しく、非常に良い経験になりました。もちろん、今回の設計は自分

たちだけでなく、様々な企業の方や市民の皆さまの協力と助言があつてこそ。今後、家具や備品が揃い、市民と学生の交流の場として活用されていくのを早く見たいです。そして今後も、上手な活用方法などを提案できたらと思います。



学生市民交流ハウスの設計に携わった学生たち。左から岡田雅宏さん（総合理工学部4年生）・岩田雄利さん・秋山拓也さん（二人とも総合理工学研究科2年生）

設置されました。地域の生涯学習の推進と市民の学習機会の拡充のため、大学の教育機能を活かした多様な事業と調査研究を行うとともに、地域の生涯学習関連機関・団体と連携を図りながら、地域社会の発展に寄与しています。

具体的な活動は、大きく分けると3つ。一つ目は市民バスポート会員の特典としてもおなじみの「公開授業」「公開講座」などの学習機会の提供、二つ目は「指導者の養成」、三つ目は「新しい教育方法の研究」です。



講座の一例



公開講座(理科実験講座)



指導者養成講座(著作権講座)

## より専門的な知識や技術の習得をサポート

活動の二つ目に挙げた「指導者の養成」ですが、具体的には生涯学習の社会教育指導者研修のこと。教える側のスキルアップを図ることは、生涯学習事業を間接的に支援することにつながり、島根大学が目指す地域貢献の一端を担うこととなります。同時に、研修を受ける地域の指導者にとっても、より高度な知識を身につけることが可能になります。

また「新しい教育方法の研究」には、webを利用して自分のペースで学習することができる講座「eラーニングシステム」をはじめ、フィールドワークや子どものための体験学習などがあります。

「生涯教育推進センターの講座に参加される方は、実用的な資格や技術の取得を目指すなど、大学の知的財産技術を本気で学びたいという方が多く、その熱心に取り組む姿勢を見ていると、教える側も真剣に取り組まなくては、と思わされます」(仲野)。

## 時代と社会のニーズに合った新しい学びを提供

そして活動の三つ目に挙げた「新しい教育方法の研究」。生涯教育推進センターでは、社会人・職業人を対象とした専門的な内容だけでなく、一般教養、語学、趣味、スポーツなど、小・中学生から高齢者まで幅広い年代層を対象とした講座を

お届けしていますが、さらなるご要望に応じた新しいプログラムを開発するために、市民の方にアンケートや聞き取りを実施しています。

「参加者のリアルなご要望をもっと活かして、講座内容などに反映していきたい。遠隔地の方に向けては、自宅で学べるeラーニングや出前講座を充実させるなど、きちんと対応していきたいですね」(仲野)。

最近の傾向として、教室で学ぶだけでなく、現場に向いて実際に見て触れて学ぶ「フィールドワーク」を希望する声が高まっており、旅行社と協力した学習ツアーの開発などにも積極的に取り組んでいます。



島根大学教育・学生支援機構  
生涯教育推進センター  
教授 仲野寛

### 「生涯教育推進センター」について伺いました

「生涯教育推進センター」では、市民の皆さまに様々な学習を提供するだけに留まらず、そこからさらに専門的な知識や技術を習得したいという方に優れたプログラムを提供しなければなりません。もっと若い年代の方にも積極的に参加してもらえよう、健康に関するセミナーや、スポーツや農業などの人気の実技系講座も積極的に取り入れ、さらなる活性化を図りたいですね。

## 受講者の声

### 公開講座「硬式テニス教室」

10回という限られた回数の中ですが、基礎的な練習から試合形式まで、いろいろな内容を幅広く教えてもらうことができ、とても勉強になりました。

また、少人数で和気あいあいとした雰囲気の中、楽しくテニスをする事ができました。普段身体を動かすことが少ないので、仕事が終わってからの運動はとてもいい気分転換にもなりました。(30代)

### 公開講座「もっともっとドイツ語を!」

かつてドイツに住んでいた事があり、再度挑戦してみようと受講しました。思ったとおり簡単な単語さえ忘れていましたが、少しずつ思い出しながらの授業。辞書、テキストを抱え大学に通うのも大学生に戻った気分で嬉しくて、休まず出席。受講生の方々との出会いもあり、会話が弾みます。(50代)

## 公開講座・公開授業・大学開放事業・センター主催講座について

各講座は、どなたでも受講できます。なお、一部の講座は、年齢、学習歴等の条件がありますので各講座の詳細ページでご確認ください。また、公開授業については学生向けの授業ですので、基本的には、高等学校卒業程度の学力を必要とします。

公開講座は、スポーツ、語学、農業、健康講座などを開講しています。公開授業は、歴史、法律、文学、産業、環境問題等の科目を開講していますので、各講座情報をご確認ください。

お問合せ

島根大学教育・学生支援機構 生涯教育推進センター  
TEL 0852(32)6408

# 島根大学学位授与式(卒業式)・入学式レポート

輝かしい未来は、ここから始まる

## 新しい世界への第一歩を 平成25年度学位授与式(松江キャンパス)

3月25日、平成25年度学位授与式(松江キャンパス)を、島根県民会館大ホールにて挙行し、合計1,161名が本学を卒業・修了しました。

小林学長は式辞において「卒業後、いかに社会の一員としての使命と責任を果たしていくのが重要。それぞれの分野で責任ある役割を担うという自覚を



持つていただきたい」と述べ、卒業生を激励。卒業生からは島根大学で学んだことを糧として社会に旅立つ決意が述べられました。また、式場の外では多数の学生が集まり、卒業生の門出をにぎやかに祝いました。

## それぞれの期待を胸に 平成26年度入学式

4月4日、くにびきメッセにおいて、平成26年度の入学式を挙行し、5学部6研究科・1,530名の島根大学生・院生が誕生しました。

式では、小林学長による入学許可の宣言に続いて式辞が述べられ、古き良き日本の心や文化が残る島根において、グローバルな視点を持つてローカルに活躍できる”グローバル”な人



材になって欲しいとのメッセージが伝えられ、入学生たちも真剣な面持ちで聴き入っていました。

### 卒業生の声



教育学研究科  
西野友一朗さん  
英語の音声学を専門に学びました。附属中学での実習は貴重な体験でした。



生物資源科学部  
宇佐美文子さん  
将来の夢は研究者。研究者として活躍する先生と出会え充実した4年間でした。生物科学科



総合理工学部  
紅盛彩さん  
物質科学科  
レポート提出が多かったので、自主的に勉強できるようになった4年間でした。



教育学部 学校教育課程  
庄本絵美さん  
中学の理科の教師になります。新入生の方は何でも挑戦し、可能性を上げましょう。



法文学部 言語文化学科  
河田真理菜さん  
大好きな英語を存分に勉強できました。今後は地元企業で地域貢献したいです。

### 新入生の声



生物資源科学部  
土肥満里奈さん  
生物が好きなので、大学院に進み、視野を拡げて将来は研究職を目指したいです。生物科学科



総合理工学部  
土肥伴輔さん  
地球資源環境学科  
大好きな地学だけでなく、社会に出た時に役立つ勉強をしたいです。



医学部 医学科  
大澤美夕希さん  
島根大学で学び、将来は僻地医療に携わる医師になりたいです。



教育学部 学校教育課程  
廣藤航さん  
生徒の心を第一にする教師になりたい。ボランティア活動などにも参加したいです。



法文学部 法経学科  
平田真優さん  
静かで落ち着いた環境で、将来に役立つ様にしっかり勉強したいです。



# 島根大学教育学部附属中学校 上代悠斗くん(2年生) 第54回自然科学観察コンクール「オリンパス特別賞」を受賞

全国の小・中学生を対象に、自由研究の発表の場として毎年行われる「自然科学観察コンクール(通称: シゼコン)」。第54回となった2013年度のコンクールでは過去最多の18,898作品の応募があり、その中から島根大学教育学部附属中学校に通う上代悠斗くん(2年生)の「世界初! クマムシの新クリプトビオシスの発見!」『液眠』によるtun状態の出現!』が見事「オリンパス特別賞」を受賞しました。

## トレハロースを使い、クマムシの新たなクリプトビオシスを発見!

「クマムシ」はコケなどに生息する昆虫で、乾燥などにより周りの環境が悪化すると「乾眠」または「クリプトビオシス」と呼ばれる無代謝状態になります。このときのクマムシは、体内の水分を減

らし、樽(tun)状態になることで、高温や低温の中で数十年も生き延びることが可能です。本研究の結果、10%の質量パーセント濃度のトレハロース水溶液によって、クマムシの樽化現象は低

浸透圧状態でも引き起こされるという、新たな方法でのクリプトビオシスを発見しました。上代くんがトレハロースに注目したのは、卵から完全飼育をしているカプトムシが



きつかけでした。カプトムシのエサとなる市販ゼリーにはトレハロースが含まれており、そのゼリーを摂取したカプトムシは成育・活動が良好だったため、その効能を解明すべくトレハロースを研究。最初は植物でトレハロースの作用を調べ、その後、昆虫への影響を調査しました。

## 生命や生物が好き 将来は島根大学で 医学を学びたい

今回の研究で難しかったのは、動くクマムシの観察経過を画像や映像にすること。受賞の知らせを聞いたときは、その苦労が認められて「やったー!」と思いました。

小さなときから理科が好きで、よく昆虫採集をしたり、クリスマスプレゼントで図鑑をもらったりしていました。生命や生物に興味があり、高校でもこの分野に進みたいです。将来の夢は医者になること。島根大学医学部で医学を学び、医者を目指したいと思います。





## アジアにおける 有効な英語教育を確立し 相互理解のための コミュニケーションの実現を目指す

これからの国際社会において、各言語圏の文化を深く理解するのはもちろん、実用的な語学力を身につけることも必要です。特にアジアの国々との英語を使った国際コミュニケーションについて伺いました。

法文学部 言語文化学科 准教授  
メンキン スコット  
**Menking Scott**

国際社会においては、様々な言語圏の人々が互いについて理解することが必要となります。そのために、実用的言語能力を身につけることも重要です。私は、島根大学の学生たちが世界中の人々とコミュニケーションできるようになることを願って教育・研究しています。



### アジアの共通言語「英語」で 真の国際コミュニケーションを

メンキン准教授の主な研究テーマは、アジアでの国際コミュニケーション。中国や韓国などは、日本人にとって最も身近な「外国」である。ところが、同じアジア圏でありながら、思考のパターンやコミュニケーションの方法には大きな違いがある。日本の学生たちがその違いを乗り越え、他国の人々ともっとコミュニケーションできるようにするために提言したいと考え、この研究を始めた。

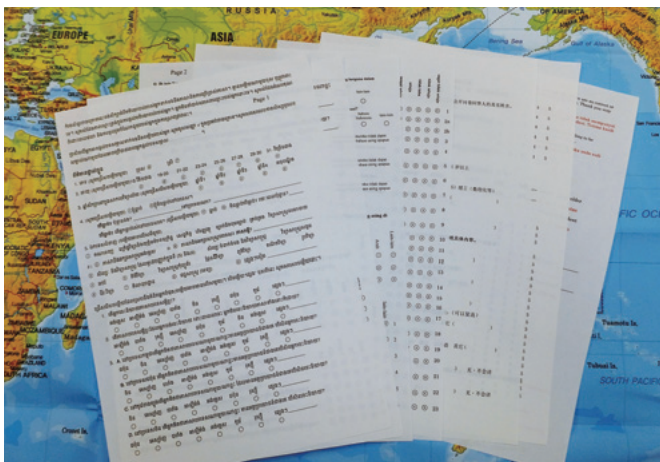
「アジア人同士が話をする時、例えばそれが日本人と中国人であっても、会話に使用するのは日本語や中国語ではなく、英語であることがほとんど。実際、日本人が英語で話をするのは、英語のネイティブスピーカーであるアメリカ人やイギリス人よりも、むしろ他の国の人の方が多いのではないのでしょうか（メンキン）。

そこで重要になるのが、国際言語としての英語の可能性である。メンキン准教授は5年間かけてアジア11カ国（および比較対象と

して米国）を訪問し、大学生の英語教育について調査。12,000人以上の学生へのアンケート、1,000人以上の学生へのインタビューを行い、アジア人大学生の英語に対する意識や英語教育について研究している。これほど大規模な調査は、他に例がないという。

「これまでの分析で、興味深い知見が得られた。例えば、他のアジア諸国の学生は、「日本人は英語が苦手」と認識する傾向がある。インタビューにより、それは日本人のカタカナ英語が原因であることが分かった。また、他のアジアの学生に比べて日本人学生は、「英会話のとき、話が途切れるような気まずさを解消する方法について学びたい」（相手に対して）適切な丁寧さをもつ英語の使い方を学びたい」という意識が低い。メンキン准教授は、これらの背景に日本の英語教育の特色が考えられるとして、これまでに多数の国際学会やシンポジウム等で研究発表を行なっている。





▲各言語でアンケートを実施。

▶フロリダ研修プログラムは、海外から見た日本を客観視する良い機会に。



現地で学生に調査。



現地大学の学長・副学長も調査研究に協力。



国際シンポジウムでの研究発表。

注目キーワード

島根大学は国際社会に貢献すべく、アジアをはじめとする諸外国との交流を推進している。そのため、海外への派遣留学生数の拡大はもちろん、世界各国からの留学生を積極的に受け入れ、「内なる国際化」を図っている。

海外からの留学生を積極的に受け入れ  
国際色豊かな島大キャンパスに

島根大学への外国人留学生数	162名 (2014.5.1現在)
■アジア	145名
■ヨーロッパ・アメリカ	9名
■アフリカ	7名
■オセアニア	1名
島根大学への海外交換学生数	9名 (2014.3.1現在)
島根大学からの海外派遣学生数	合計146名 (2012年度)

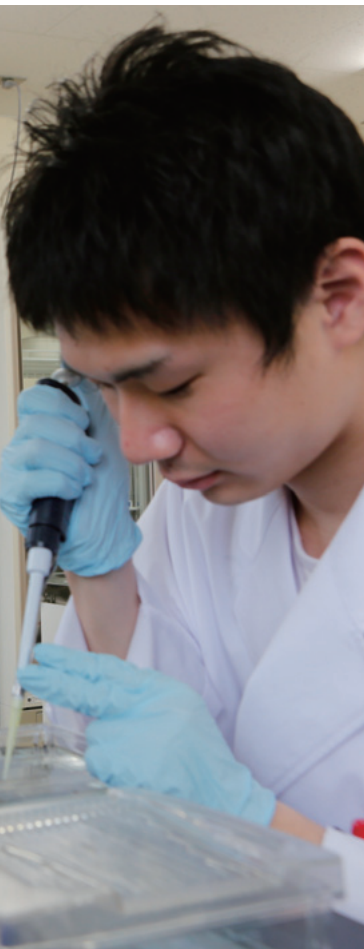
日本人大学生の英語スキルを向上させるだけでなく、実際に英語を使う機会を増やすことよって異文化への理解を高めたい。そんな思いから誕生したのが「フロリダ研修プログラム」だ。「英語を上達させるためには教室の外に出て、英語をもっと頻繁に話したり聞いたりする機会をつくるのが近道。また、アメリカの大学生との交流を通じて、広い視野を身につけてほしい(メンキン)。

このプログラムは、語学研修だけではなく、本場アメリカの大学や地域生活、文化を体験することに重点が置かれている。例えばフロリダ大学の正規学生が受けている授業を受けたり、ホームステイやボラン

ティア活動などを通して生きたアメリカ社会を体験したりする。さらに、アメリカの学生と日本人の学生が1対1で会話をする機会も意識的に設けられている。

また、メンキン准教授は、こうした教育・研究活動を進めるにあたって、クリティカル・シンキング(批判的思考)を重視している。「学生たちには常に『何故?』『それは本当に真実なのか?』と自分で考え、判断できる人になってほしい(メンキン)。何事も「絶対」と決めつけない、クリティカル・シンキングを身につけた島大生が、世界の人々とコミュニケーションを深めていくことに期待が寄せられている。

異文化理解を体感する「フロリダ研修プログラム」



## 未だ解明されない 原因遺伝子の メカニズムを追求する

高血圧や脳卒中の原因の一つと考えられる遺伝子。  
ラットでの原因遺伝子発見を目指す並河教授に話  
を伺いました。

医学部病態病理学 教授

なびか とおる  
並河 徹



ラットを用いた高血圧原因遺伝子の同定研究を行っているの  
は、国内では私たちの研究グループだけです。いつかそのメ  
カニズムを解明したいですね。

は考えて欲しい」(並河)。

### ラットの研究が ヒトにおける治療法の開発につながる

「病気が発症する原因には様々な要素があり、それは大きく二つに分かれる。食生活や生活習慣などの環境的な側面と、遺伝などの体質的な側面だ。並河教授は現在、その両方の研究を行っているが、最初に取り組んだのは遺伝子を因子とする発症メカニズムの解明だった。そもそもこのきっかけは、島根医科大学での恩師との出会い。その恩師が遺伝的高血圧ラット研究の権威だったことから、自然とその分野に取り組むこととなった。ラットでの研究結果が即ちヒトにも当てはまるわけではないが、発症メカニズムが解明されることで、ヒトにおける同じ疾患の予防法・治療法の開発につながっていく。

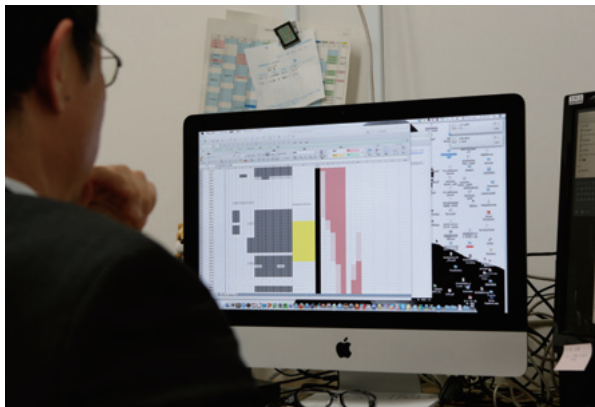
並河教授が研究しているのは、遺伝的に高血圧や脳卒中を起こすモデルラットを用いて、それらの病気の原因となる遺伝子を見つけること。例えば、血圧の高いラットと通常のラットとは、その細胞中のゲノム(遺伝情報)に違いがあり、それらを丹念に比較していくことで因子を絞り込んでいく。ただし遺伝子自体がまだまだ未知の分野であるため、比較することだけでも非常に地道で膨大な作業。さらに、違いを発見したとしても、それが病気に関わる遺伝子かどうかは簡単には証明できない。長く研究を続けている並河教授にとっても、原因遺伝子そのものの同定は未だ成し遂げられていない大きな目標である。

### 医学研究と社会学研究の共同が 貴重な成果を生む

「ラットでの研究の成果をヒトに応用するためには、ヒトで遺伝子の影響を検証するための研究も必要」と考えた並河教授は、最初

は脳ドックでの研究を、次に県内各地での住民健康調査を開始した。こうした研究には10年単位の期間と多くの方の協力が必要と





ゲノムの比較は地道で膨大な作業。



住民健康調査の様子。学内だけでなく自治体の協力も得ながら行われる。

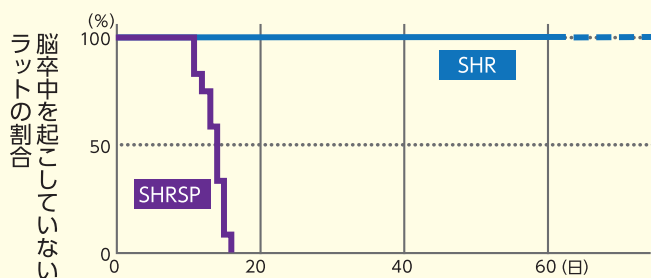


実験指導中の並河教授。「誰も正解を知らない中で答えを得るためにどうしていくかを学生に

注目キーワード

**SHR**  
(Spontaneously Hypertensive Rat)

高血圧自然発症ラット。血圧の高いラットを選択交配して生まれたモデルラット。生まれつき高血圧を発症しているため、通常のラットと比較することで様々な研究ができる。さらに脳卒中を発症しやすくした、SHRSP (Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rat) 脳卒中易発性高血圧自然発症ラットもいる。



SHRとSHRSPとで脳卒中を発症する日数を比較したグラフ。SHRSPは短期間で多数発症する。

なるからだ。  
住民健康調査は、現在、文部科学省の特別教育研究経費による事業として認められており、疾病予知予防プロジェクトセンターを主体にして進められている。加齢性疾患の感受性遺伝子の探索や、遺伝因子以外のリスクとなる環境因子・生活習慣などの探索が行われており、これら因子の相互作用を調べることで、より効果的な疾患の予防法などの開発につなげて

いくことが主目的である。調査研究には社会学の専門家も参画しており、「医学研究と社会学研究が共同することで、より幅広い研究が可能になった」(並河)という。この研究は地域との連携がよりスムーズに進んでいる好例として、今後島根大学の柱となるべきプロジェクトに育つ可能性がある。こうした取り組みが他の地域のモデルとなることも、並河教授の強い願いである。

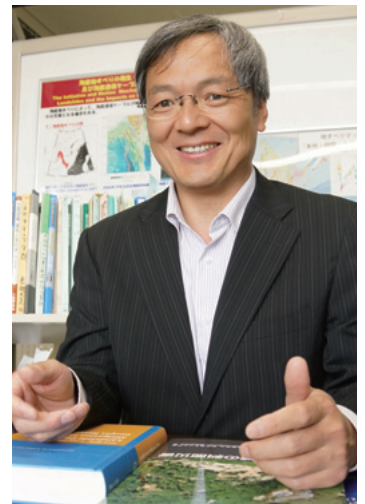
## 地方の国立大学として 防災研究拠点の 形成をリードしていく

自然災害の多い国である日本は防災研究の先進国。予測や予防まで含めた防災に関する研究を続ける汪教授に話を伺いました。

総合理工学研究科  
地球資源環境学領域 教授

ワン ハツブ  
汪 発武

防災研究で一番大切なのは、まず現場です。そして次が実験と数値解析。学生たちには、できるだけ現場に行って自分の目で見える様に指導しています。



▲トンネル埋没現場の視察。

### 地域密着と国際連携で 自然災害を軽減する

昨年、島根県でも豪雨による甚大な災害が発生したことは記憶に新しいが、元々島根県と鳥取県の山陰両県は、火山地域の上に海岸線が長大であり、自然災害に対して脆弱な地勢とされている。反面、災害に関する統合的な研究には適しており、この島根の地で防災に関する研究を行うことは、地域貢献に直結するだけでなく、その成果は国際的にも応用できるものだ。

大学時代から中国の長江に設けられた三峡ダム周辺の地滑りの研究を続けていた汪教授は、「防災研究なら日本が世界一進んでいる」（汪）と思いつき、1995年に日本の京都大学防災研究所へ。その後一貫して防災研究に携わり、2010年に島根大学に赴任した後にも、NPO法人国際地盤災害軽減機構を松江で登録するなど、災害全

般について積極的に取り組んでいる。

具体的課題としては、

(1) 山陰地域における大雨災害の時間的、空間的、量的な変化についてGISによる分析を行い、近年の特性を明らかにする。

(2) 山陰両県の海岸地域で津波堆積物を広域的に調査し、津波の到達範囲とその分布を高精度に把握して津波による浸水域を見積もる。

(3) 集中豪雨・豪雪による突発土砂災害を対象に、その発生機構を解明する。また、将来的には光ファイバーセンシング技術を利用した道路・鉄道周辺斜面の変形モニタリングシステムを構築するため、直轄国道や鉄道沿線のファイバーの整備・利用状況を調査し、抽出された課題をもとに運用モデルを検討・提示する。

これらの3つを想定し、研究に取り組んでいる。

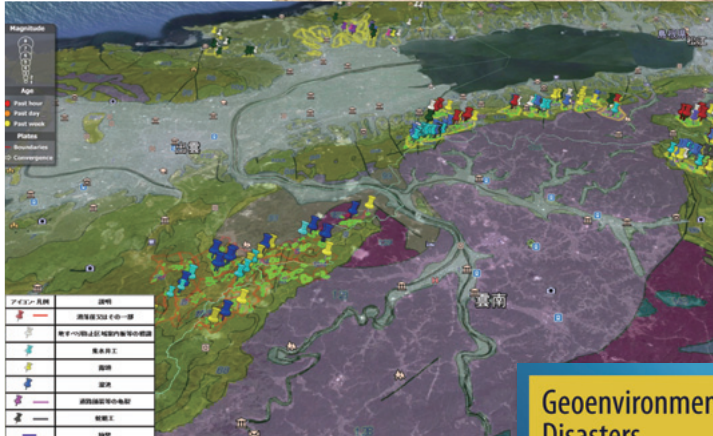
### COCC事業における プロジェクトセンターの役割

汪教授が進める防災研究は、2012年に学内公募で「自然災

害軽減プロジェクトセンター」として承認され、部局を超えた学際的取

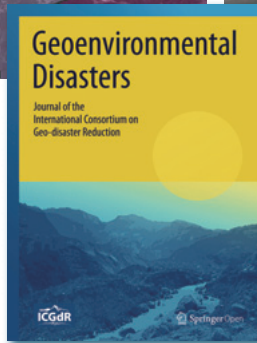


▶  
2013年7月、萩・津和野豪雨によるJR山口線の洗掘災害の現場。



▲地滑りなどの自然災害GIS (Geographic Information System)の一画像。

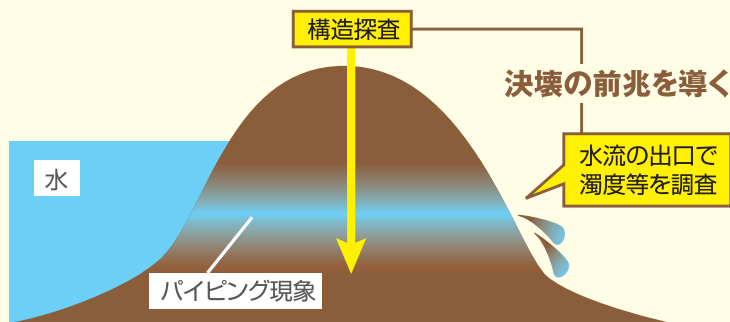
▶  
汪教授が編集長を務める国際学術誌「Geoenvironmental Disasters」。Web上で会員登録をすれば誰でも閲覧できる。



注目キーワード

豪雨やそれによる地滑りなどで川がせき止められてできる土砂ダム。これが決壊した場合、下流域での大きな水害の発生が懸念される。汪教授は、この土砂ダムが決壊する前兆現象を抽出して決壊を予測する研究を続けている。土砂ダムには、ダムを貫通して水流が生まれる「パイピング現象」と呼ばれる現象が起こるが、この出口で水の濁度などを測定。同時にダム上から下に向けて探査をし、土砂ダム堆積物の構造を調べる。この結果から決壊の前兆を導き出そうという研究で、正確な予測ができる様になれば避難指示などに大きく生かされることになる。

土砂ダム決壊前兆現象



り組みが学内外に対してより鮮明になった。さらに2013年には文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COO事業)」にも選定され、今後はさらに地域との関わりも深まっていくことになる。既に2010年から「山陰防災フォーラム」で年2回の市民も対象にした講演を継続して行っているほか、国や自治体の防災担当者や民間の防災専門家とのネットワーク形成も進んで

いる。汪教授の目標は「自然災害軽減プロジェクトセンター」を地域防災・減災の知的拠点にしていくこと。そこには「官民学の連携をはかる中で、国立大学法人として率先してリードしていく姿勢が必要」(汪)、との思いがある。この連携の中で、地域の防災・減災戦略の策定などに参画していくと同時に、防災に関する専門家の育成もはかることが今後の目標だ。





市民や学生と一緒に各地域の特徴的な地質を学ぶことも重要な活動。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」II大学COC事業  
島根大学での各プロジェクトセンターの活動について毎号紹介します

# 出雲の地にジオパークを くにびきジオパークプロジェクトセンター

昨年、隠岐ジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟したことで脚光を浴びましたが、同じように出雲地域も、豊かな自然と歴史・文化が融合する貴重なエリアです。くにびきジオパークプロジェクトセンターは、この出雲地域を「くにびきジオパーク」として確立することを目標として研究・活動をしています。

そのテーマは「出雲地域の自然と歴史・文化のネットワーク化事業」。出雲地域の地質学的自然と、人間が関わってきた歴史・文化を関連づけて研究し、その成果を提供することで地域発のオリジナル活動を支援していきます。

また、正式に「ジオパーク」と認められるには、日本ジオパークネットワークへの登録が必要です。それには大学単体ではなく、市民や民間団体も含めた協議会として申請をする必要があります。まずはその協議会を整備することが最初のステップとなります。現在学内では、センター長である野村教授を含め15名のメンバーが中心になって活動中。協議会結成に向けて、地域への理解促進を図っています。

島根大学研究機構  
汽水域研究センター  
教授 野村律夫



島根県は「出雲国風土記」などの歴史的文献に記されていることも分かる通り、古来からの歴史と文化があり、しかもそれらが地質学的に関連づけて考えることのできる重要な地域です。神話と自然の結びつきをもっと明らかにしていきたい、それを全国にアピールしていきたいと思っています。それによって、この地を訪れていただける方がもっと増え、地域の活性化につながるの嬉しいですね。興味をお持ちの市民の方も、どうぞこのプロジェクトに関わっていただきたいと思っています。

くにびきジオパーク構想の  
基本的構造







自治体の協力を得ての調査がデータの基盤となる。

# 地域づくりは健康づくり

## 疾病予知予防プロジェクトセンター

病気の予防を「地域」という視点から調査研究する疾病予知予防プロジェクトセンター。「どの地域で、どういった生活を送る人が、どんな病気のリスクがあるか」ということを、長期に渡る調査研究で明らかにしていくことがその柱です。具体的には自治体の協力の下、集団健診時に聞き取り調査を実施しデータベース化。そのデータを元に様々な角度からその傾向を解析して、予防対策の構築に役立ちます。

これまでの調査では、例えば「山間部に居住していて自家用車を利用しない人ほど、高血圧症の治療をしている確率が高い」という事実が明らかになりました。こういった生活環境、生活習慣から導き出される疾病の傾向を医学的視点だけでなく社会的視点からも考察し、目に見える手法で公開していくことにより、病気になるにくい地域生活モデルを発信していくことが可能になります。

すでに2006年からプロジェクトセンターの前身として活動を開始。調査に不可欠な各自治体との協力体制も整ってきました。今では

自治体との共同研究も具体的に進んでいます。



島根大学医学部内科学講座内科学第3が開発したiPadによる認知症のスクリーニングシステム。iPadの導入により、調査時間も大幅に短縮。

島根大学研究機構  
戦略的研究推進センター  
専任講師 濱野強



このプロジェクトセンターの活動では、地域と大学の距離が縮まるという大きな利点があります。両者の連携による問題解決というだけでなく、大学が架け橋となつて各自治体間のノウハウの共有を行うことで、地域と地域を結んだより効果的な環境づくりに貢献できます。学生も市民と直接ふれあいながらの活動を通して、より地域に貢献できる人材として育てて欲しいですね。

島大の多彩な活動を  
チョイスしてお伝えします。

しまだいい

# トピックス



## 産官学連携し六次産業へ取り組み

### 出雲おろち大根を使った 新商品「みぞれソース」を知事に紹介

生物資源科学部の小林伸雄教授が県内に自生するハマダイコンを品種改良した「出雲おろち大根」(品種名「スサノオ」)が、これまでにない辛味と風味、独特の風貌を楽しめると高く評価されています。大学・県・生産農家・加工業者で栽培方法の確立などに取り組み「出雲おろち大根新需要創造協議会」を立ち上げ、このたび、県内醤油メーカーと共同で新商品「みぞれソース」を開発。濃厚でありながらもしつこくない味わいで、現在、道の駅や直売所で販売しているほか、飲食店でも取り扱われています。5月1日に

は協議会メンバーが溝口善兵衛知事にP.R.。今後はさらに県内外への販路拡大を図るとしています。



### 島根大学からのお知らせ

島根大学は今年10月、法人化10周年を迎えます。皆様には日頃から本学の教育・研究活動等について、ご理解・ご支援をいただいているところではございますが、これまで以上のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、10月11日(土)には記念式典を予定しております。詳細につきましては、本学ホームページ等にてお知らせいたします。

## 災害医療対策に向け救急車を導入

### 医学部附属病院救命救急センター 納車式を実施

医学部附属病院では、災害対策の一環として2台目の救急車を導入し、4月10日に医学部附属病院救命救急センター前において納車式が実施されました。当日、井川幹夫病院長及び島根トヨタ株式会社の中田専務の挨拶、記念キーの贈呈などが行われ、多数の列席者とともに納車を喜びました。今後は、日常的な入院患者の移送などに活用するとともに、中国・四国地区の大学病院への災害医療支援や重大災害の際等にはDMAT(災害



派遣医療チームが同乗のうえ救急現場において初期診療や患者輸送を行います。

島根県の自然、歴史、文化そして産業は地域の財産であり、大学教育の格好の教材だと思います。  
(東京都多摩市・Kさん)

地元の大学の「今」を地域に向けて発信するのはとても良いことだと思います。  
(島根県出雲市・Yさん)

島大1期卒業生です。毎号関心を持って拝読しています。  
(島根県松江市・いさん)



▼ 県内企業への  
人材供給に期待

外国人留学生のインターンシップ  
受入推進協議会を開催

4月23日、松江キャンパスで外国人留学生のインターンシップ受入推進協議会を開催しました。島根県経営者協会、島根県中小企業団体中央会、県内企業の代表者の方々に出席いただき、小林学長や理事、安藤国際交流センター長と、外国人留学生のインターンシップ受入推進について協議。今後は外国人留学生の獲得、入学後のインターンシップ先や卒業後の就職



先の開拓、県内企業への人材供給へと発展させる予定。さらなる国際化が期待されます。

▼ 学生スキーヤーが世界で活躍

教育学部4年生・名越由佳さんが  
スキークロスジュニア世界選手権の  
出場結果を報告

4月6日にイタリアで開催されたスキークロスジュニア世界選手権に出場した教育学部4年生の名越由佳さんが、5月7日、その結果を学長に報告しました。決勝進出は叶いませんでしたが、世界の舞台で確かな手ごたえを感じたようでした。



ときの喜びなどを語り、「次の目標はワールドカップと4年後、韓国で開催されるピョンチャン冬季五輪に出場すること。お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずにより一層努力したい」と決意を固めていました。

第2回

「しまだいうーモア連歌大賞」  
作品募集

複数の人で五七五の句と七七の句をつなげ合作する連歌。その復興と発展のため、下房俊一本学名誉教授(下房桃菴)の監修のもと、今年も「しまだいうーモア連歌大賞」を開催します。発表は10月12日の第8回ホームカミングデー(松江キャンパス)にて。愉快的な作品を多数お寄せください。



- 課題 課題①「スーパーの庇を借りるたこ焼き屋」  
課題②「親が子供に叱られている」
- ※ 課題①の前句には「七七」、  
課題②の前句には「五七五」の句を付けてください。
- 応募期間 平成26年8月31日(日)まで
- お問い合わせ先  
島根大学「しまだいうーモア連歌大賞」係  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6019  
※ 詳細については上記までお問い合わせいただくか、  
ホームページをご覧ください。  
<http://www.s-renga.shimane-u.ac.jp/>

トピックス・セレクション

▶ 2014.04.11

ロシアの「沿海地方の蓮の美」文化交流訪問団5名が竹内副学長を表敬訪問。極東連邦大学との交流に期待。



▶ 2014.04.18

鳥取県日南中学校の2年生40名が島根大学松江キャンパスを訪れ、構内や施設を見学しました。



▶ 2014.04.18

島大発のゆるキャラ「おったちゃん」の権利譲渡式を開催。出雲市乙立地区のマスコットキャラクターに。



その他のトピックスもホームページで

島大 検索 [www.shimane-u.ac.jp/](http://www.shimane-u.ac.jp/)

読者の声

広報しまだいVol.20に寄せられた声をお届けします。

サークル紹介が楽しく、若い学生さんの笑顔がステキでした。  
(島根県大田市・Mさん)

いろんな分野の情報があるので、楽しめそうですし勉強にもなります。  
(島根県邑智郡・Yさん)



初出展

# 広島フラワーフェスティバルで 島根大学をアピール

今年で38年目を迎える、広島と世界を結ぶ平和と花の祭典「広島フラワーフェスティバル」。毎年5月3日～5日の3日間で160万人以上の観光客が訪れる、中国・四国地方最大級のイベントです。今年、島根大学は県外の大学としては初めて、ブースを出展。その様子をレポートします。



## 島根大学の学術・ 研究を広くアピール



宮地弘オフィスマネージャー

まず今回、広島フラワーフェスティバルに出展した理由について、島根大学広島オフィスの宮地オフィスマネージャーに話を伺いました。

「一昨年の古事記編纂千三百年、昨年の出雲大社『平成の大遷宮』と、島根が全国から脚光を浴びる機会が続きました。島根大学でも昨年度の東京に続いて今春は広島で『古代出雲文化フォーラムII』を開催し、本学の幅広い学術研究を全国に発信しています。今回のフラワーフェスティバルは、本学の知名度をさらに上げ、

研究の成果を知っていただくのに良い機会だと思いました(宮地)。

今回の島根大学ブースの出展内容は、大きく分けて以下の3点。

(1) 古代出雲文化展示とクイズ  
展示パネルを見ながらクイズに回答し、本学の古代出雲文化研究について知っていただく。参加者には本学オリジナルクッキーをプレゼント。

(2) 附属農場生産のジャム等の販売

島根大学の農場で収穫・加工しているものを販売し、研究成果の一部を直に知っていただく。

(3) OB・OGに向け

現在の島根大学を広報

「先輩見つけ隊」が首からプラカードを下げてイベント会場内を歩き回り、広島で働くOB・OGを島





来場者の声

観光で出雲大社や松江を訪れたことはあっても、古代出雲文化についてじっくり触れる機会はなかったので、ブース内の展示を興味深く見せていただきました。

島根大学を卒業した同級生もいるので、何となく馴染みのある大学です。



広島市安佐南区/Uさまご夫妻

社会人なので、大学生と話すことが学生気分に戻れて楽しかった。広島なのに島根の展示があるのは、とてもおもしろいと思いました。



岡山県岡山市/Yさま

島根大学についてあまり詳しく知らなかったのですが、このような展示は大学を知る良い機会だなと思います。

根大学のブースへ誘導。

実際にご来場いただいたお客さまからは「ジャムとか作っているなんて初めて知った」「古代出雲文化について知る事ができた」など、反応は上々でした。

「受験相談なども受け付けて、島根大学に興味を持ってってくれる高校生が増えてくれるとうれしいですね」(宮地)。

## 学外の人と触れ合う貴重な体験に

今回のブース出展にあたり、3日間で18名の学生ボランティアが参加主にクイズコーナーのサポートをしました。

最初は少し緊張気味の学生たちでしたが、クイズの参加者と話をするうちに、自然と笑みがこぼれるように。日頃、異世代と話す機会

が少ない学生たちにとって、今回のブースイベントへの参加は貴重な体験となったようです。

大奮闘の学生たちを眺めながら、宮地オフィスマネージャーは「今年はブースの企画や準備等を全て大学側で実施しましたが、将来は学生主体で運営ができたら」と一言。次のイベントに繋がる素敵な目標が見つかりました。



## 学生ボランティアにインタビュー

### 人見知りを克服する いきつけかけになりました

このような活動に参加するのは今回が初めて。子どもから年配の方まで、幅広い年代の人がたくさん来場され、島根県のこ



総合理工学部1年生  
玉廣将平さん

と、そして大学のことを知っていただく良い機会になりました。

また、古代出雲文化に興味を持つ方がとても多くて驚きました。ブースに展示している以外のことを逆に教えてもらったりして、とても楽しかったです。

私は人見知りするタイプなのですが、今回こうして様々な方と触れ合った経験を活かし、コミュニケーション能力を高めたいです。

### 自分の世界を広げる 貴重な体験ができました

今回ボランティアに参加して、普段なかなか接する機会がない他学部や学生や、色々な部署の職員の方と話をすることができ、



生物資源科学部2年生  
新宅みゆきさん

人脈が広がりました。

また、お客さまからも「今どきの大学生ってどんなことしてるの?」と興味深く声をかけていただいたり、偶然にも生物資源科学部の前身である農学部出身のOBの方とお話することができたり、楽しい時間を過ごせました。

もし、またこのように学外へ出る機会があれば、ぜひ積極的に参加したいです。

# 新たな研修プログラムで専門性と総合的な対応力を育む

1つの診療科目ではなく、患者に寄り添い多角的な診療を行う総合医が求められる今日。その現状を踏まえ、島根大学では今年度より研修医制度の特別プログラムを新たに設置しました。本プログラムを受けている研修医・藤井俊吾さんの研修の様子を通し、プログラムの内容や利点について3回にわたり特集します。

## 研修医プログラムを通し、 地域と患者の生活に寄り添う医師を目指す

一昔前は卒業後すぐに1つの専門科で研修を始めることが一般的でした。しかし、総合医の重要性が増している近年においては、2年間は1つの病院内で内科や麻酔科など複数の専門科で研修を積み、3

年目から希望の専門科へ進むケースが増えています。島根大学医学部附属病院では、さらに多様な経験と専門性を研修医のときから身につけるべく新たな研修医プログラムをスタート。県内のみならず県外の複数の病院も研修先に選択することが可能になりました。

今年度は3名の研修医が本プログラムを受講。その中の1人、藤井さんは来年より千葉県の亀田ファミリークリニック館山で家庭医療、広

島県の県立広島病院で救急医療など、計4カ所の病院を1年間で回り、研修を受ける予定です。「例えば亀田ファミリークリニック館山は、日本で家庭医が浸透する前から



家庭医療を行っている先駆け。研修医のプログラムでは珍しい家庭医療を現場で体感することができま

す。このように、より幅広い選択肢の中から希望する研修が受けられることが、このプログラムの特長だと思っています(藤井)。学生ときから地域に貢献する医師になりたいと考えていたと言う藤井さん。その夢のためにも新しい研修プログラムに積極的に取り組む決意で研修に臨んでいます。

### 藤井さんの研修プログラム(予定)

#### 1年目…島根大学医学部附属病院

4・5月	消化器内科	11月	緩和ケア
6・7月	腎臓内科	12・1月	循環器内科
8・9月	麻酔科	2月	精神科神経科
10月	救急部	3月	放射線科

#### 2年目…千葉県 亀田ファミリークリニック館山

家庭医療	など
…広島県 県立広島病院	
救急医療	
…島根県 大田市立病院	
総合診療	



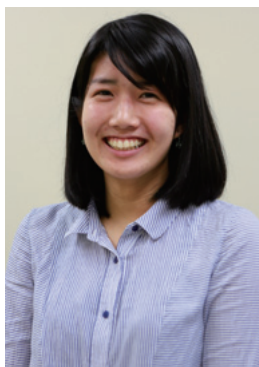
さまざまな病院で学び、  
将来は総合医として地域に貢献

病気を治すことはもちろん医師としての大きな役目です。しかし、それが難しい場合でも、患者が病気でうまく付き合え、毎日を不安なく、楽しく生きることをサポートできる医師になりたいと思っています。



## せっかくの大学生活 どんどん新しいことに 挑戦して欲しい

石丸 真理子さん  
(インドネシア「アンダラス大学」へ留学/  
生物資源科学部4年)



島根大学では水処理について学んでいるので、留学先でこれまでの知識を実際に自分の目で確認できたことが収穫です。留学は同じ学科の友人に影響されて決めました。大学では新しいこと

いからでも挑戦できます。これから大学生になる方にも、ぜひ島根大学で、新しくやりたい何かを見つけて欲しいです。

## 世界に通用する 語学力を身に付け 英語教員として活躍したい

岡本 倫明さん  
(アメリカ「セントラルワシントン大学」へ留学/  
教育学部4年)



将来、英語教員になりたいと思い、世界に通用する英語力を身に付けるため留学を決意。最初は、語学力が足りず、授業が理解できなかつたり、他者との人間関係が上手くいかなかつたりと悩むことも

ありました。アメリカでは、自己主張をすることで良好な人間関係が築けます。自分なりに意見を持ち、発言する力が身に付いたと実感しています。



留学生・留学体験者大集合!

海を越えた島大生

## ここで学んだ 日本の文化と語学を 将来の仕事につなげたい

アンドレ ディナタさん  
(インドネシア「アンダラス大学」からの留学生)



2002年に日韓で開催されたワールドカップで日本を知り、日本へ行きたいという夢が膨らみました。母国の大学で日本語を勉強し、1年前から島根大学で学んでいます。島根は緑が多く静かな環境

で、インドネシアに近い雰囲気があります。これからは日本語を勉強して、大使館職員もしくは日本語の先生になる夢をかなえたいです。

## 古典文学を読み解き 無常観や人生観を 学んでみたい

李 陽さん  
(中国「東北林業大学」からの留学生)



母国で日本語を2年間学んでいました。読み書きはできるまでになりましたが、来日してみると、話し言葉や和製英語の理解に苦戦。特に、中国は敬語の概念がないため、先生とは一語一句、緊張しながら会話しています。今、「源氏物語」に関心を持っています。より深く読みとき、日本人の無常観や人生観を学びたいです。

島大生の日常をご紹介します  
**Campus**  
 キャンパスチェック!  
**Check**

今年から島根大  
 学に通う3人。友  
 だちがたたくさん  
 できるのも大学  
 の魅力だとか。

先輩が  
 優しい!

イケメンが  
 多い!

勉強に集中  
 できる!

さらに  
 食堂のご飯が  
 美味しい!



生物資源科学部  
 糸魚川さん 小野さん 山浦さん

01 島大キャンパス日記

授業の合間にキャンパスで  
 くつろぐ学生に、島根大学の  
 魅力を聞いてみました!

僕は医学部ですが、島根大学は  
 他の大学に比べて女子率が高い  
 と思います。  
 今、仲間内ではやっているのは  
 「鍋パーティー」。楽しいですよ!



出雲キャンパスから授業のために  
 松江キャンパスに来ていた医学部4  
 人組。ちなみに三谷さんはいじられ  
 キャラだそうです。

医学部 三谷さん





# 02 島大自慢! 【松江キャンパス学生食堂】



食堂部店長  
石倉孝二さん



学生さんはどうしても食事が偏りがち。そのため、毎月おすすめのメニューによる食べ方の提案をすることで、満遍なく栄養を摂ってもらえるような工夫をしています。例えば、メニューの組み合わせによって変わる栄養素を数字でお知らせしたり、レシートにも、その日食べたメニューのカロリーや塩分が表示されているので参考にして欲しいですね。学生さんたちが4年間、健康に過ごしていただけるよう、食生活を通して応援しています！

## 松江キャンパス人気のメニューベスト3



**No.1 とりポンからあげ**  
302円/税込

大根おろし、ネギ、ポン酢でサッパリ。ボリュームがあるので男子に人気。



**No.2 やわらかヒレカツ**  
280円/税込



やわらかいヒレカツに、甘辛のマソース。キャベツもたっぷり。



**No.3 チキン竜田 甘辛ソース**  
280円/税込



竜田揚げした鶏肉に、ピリッと甘辛いソースがポイント。

## 教えて!先輩! 動画公開中



高校生の皆さんの疑問に、先輩が動画でお答えします。スマホをお持ちの方は、ぜひ見てみてください!

### ご利用方法

Androidの場合→GooglePlay  
iPhoneの場合→App Storeで「Junaioジュナイオ」を検索してダウンロード



「Junaio」を起動後、画面右上のボタンをタップ。「チャンネル用QR」をスキャン

〈チャンネルQR〉



QRをスキャンすると、チャンネルのダウンロードが開始されます

後藤さんの写真にカメラをかざすと動画が再生



選手権当日の様子(手前が後藤さん)

### 2位になった感想は?

目標が優勝だったので悔しさはありますが、たくさんの人に応援してもらえたことがとても嬉しいです!

### 日頃、どんな練習をしていますか?

とにかく長い距離を漕いで、色々な人からのアドバイスをもらいます。

### ボートをはじめたきっかけは?

高校のボート部が海で練習していたのですが、私は海が好きなのでそこに惹かれました。

### ボートの魅力は?

水を掴んだときの爽快感と、上を見上げた時の、景色を独り占めしたような気が好きです。

### 島根大学を目指している高校生に一言!

夢をかなえようとするなら、環境はどんなところでもいいと思います。

重要なのは、そのために何をするか、です!



今号はこの人!

**後藤春可さん**  
(総合理工学部3年生)

2013年10月に行われた、ボートの第54回全日本新人選手権大会に出場し、見事女子シングルスカル2位に入賞した後藤さんにお話を伺いました。

ボート部の全国大会で  
見事2位に!

# 03 キラリ! キャンパスの星

島根大学でひと際輝いている学生を紹介

# 自身の危機意識を見つめ直す 「きつかけバス47」報告会

今年2月19日から22日にかけて実施されたボランティアツアー

「きつかけバス47」の報告会が5月20日、本学学生会館の大集会室で社会人、学生含め約20人が参

加して行われました。

報告会は2部に分かれ、後半はイベント参加者ときつかけバスしまねのメンバーがグループに分かれ、「もし大学で震度6の地震が発生したら」との想定

で、地図上の現在地から運動場までの避難の方法を探るワークショップを体験しました。

避難の途中で「食堂で火災」や「トラックが横転して火災」などと書かれた数枚の「アクシデントカード」を引き、不測の事態が起こった時どのような行動をとるべきか意見を交わしました。

アクシデントに遭遇した際には、まず情報は正しいのか判断し、経路変更の必要性や人が殺到すると予想され

るため落ち着いていた行動が必要という意見が出ました。普段過ごすキャンパスでの地震発生を想像することで、自身の危機意識を見つめ直す機会となりました。報告参加者の中で、「グループワークで大学の耐震について考えられてよかった」という声もある一方、「ボランティアツアーは、ただ見て回っているだけのよう感じた」という声も聞かれました。



ツアーに参加し、20日の企画代表を務めた曳原守さん（法文学部3年生）は、被災地を訪れた際に「その日まであった暮らしが破壊されたことを目の当たりにした」といい、「報告会にあたって市役所で防災の話を聞いたところ、備蓄は被災地に物資を送る以前の状況に戻ったが、全く足りていないと感じた。この点を今後の活動に生かしていきたい」と今後の抱負を語っていました。

「きつかけバス47」は、47都道府県の学生計2,000人を東北3県に連れていくボランティアバスツアー。島根県からは島根大学に加え、島根県立大学、島根県立大学短期大学部から40人の学生がツアーに参加しました。

なお、報告会前半では遺留品詮索作業や震災の語り部の方の講話、福島除染情報プラザへの訪問など東北で過ごした3日間の日程を順に説明したのち、メンバー3人が被災地を訪問した感想を述べました。

（学生プレス研究会・石原遥菜）





# 女性と若者が主役に ポリンピック

本学松江キャンパス大会館で5月11日、女性や若者の政治参画を考える「ポリンピック！女性×若者×政治II？」が行われ、学生17人を含め44人が参加しました。女性の参加が24人と半数以上を占めました。

来春の統一地方選に向け「市川房枝記念会女性と政治センター」と「島根大学ポリンジャー」若者の手で政治をよくし隊！」が協働して開催しました。

女性と政治の現状、若者と政治の現状をそれぞれ財団法人市川房枝記念会女性と政治センター理事・事務局長の久保公子さんとポリンジャーの清水雄也さん（法文学部2年生）が発表しました。



テーブルに分かれて意見を出し合う参加者

ポリンジャー恒例の「ワールドカフェ」も行われ、今回は若者と女性が議題ということから①なぜ若者が政治に参加したほうが良いのか②なぜ女性が政治に参加したほうが良いのか③なぜ若者が政治の場に出てこないのか④なぜ女性が政治の場に出てこないのか⑤なぜポリンジャーや議員になったのか、なぜこの場にきたのか——など、5つのテーマに沿って進められました。

参加者は自分が語りたいテーマのブースへ赴き、ポリンジャーの司会のもと、議論を展開していました。

「ワールドカフェ」で話し合われたことをもとにして、「パネルディスカッション」が行われ、パネラーの東京都板橋区議会議員・井上温子さんと松江市議会議員、岩本雅之さん、そして島根大学ポリンジャー・石原遥菜さん（法文学部2年生）の発言をコーディネートした島根県議会議員・白石恵子さんがまとめました。

井上議員は「私は地域の仲間に支えられている。だから地域の仲間を大切にすることが重要だ」と説き、岩本議員は「女性が働きやすい環境を地域全体で考えることが大切だ。また、働いてよかつたと思える環境作りをすれば若者の参加も見込める」と話しました。

そして、石原さんは「若者は政治に関心がないわけではない。どのように政治にかかわったらよいかかわかっていないだけだ。だから、政治にかかわりやすい環境づくりをすることができればよいのでは」と主張していました。

この会に参加した松原成久さん（法文学部1年生）は「政治の活動の一つは参加することだと思っただけでここにきた。ワールドカフェではもう少し価値観の違う意見が出ると思ったが、女性も若者も問題点は共通しているようだ。20歳になったらすぐにでも選挙に行きたい」と話していました。

（学生プレス研究会・多賀大晃）

**荒れた森林を元気にしよう!**  
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなで  
森を守ろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎  
**神在の里** 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在（かみあり）の里（720ml）2本入りセット…3,200円（税込）

島根大学生協同組合  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240  
http://omise.seikyoku.jp/shimane

印刷テクノロジーで、  
世界を変える。

**TOPPAN**

凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp  
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

松江キャンパス

[準硬式野球部]



休憩時間の和やかさもチームづくりのエッセンス

白球を追う瞬間と  
チームメイトと語り合う時間  
メリハリつけて集中力アップ

大学間のレベルが拮抗する中、昨年度の秋季リーグ戦(2部)で見事に優勝を勝ち取ったものの、続く入れ替え戦で敗退。1部リーグ昇格のチャンス逃してしまいました。

しかし敗戦を経て、強化点は「集中力」と課題が明確に。練習と休憩のメリハリをつけるなどして集中力アップに努めてきました。

また元々良好だったチーム内の雰囲気も手伝って、学年にとらわれず自由に意見を出し合い、切磋琢磨し



集中力みなぎる練習のひとつ

てきました。

そして新入部員が加わり、迎えた今シーズン。昨年、チームを率いてきた川上真也前部長(総合理工学部3年生)は経験を踏まえて「今後も

日々の練習を大切に、個々の成長を見せたい」と意欲をのぞかせ、新部長の小林大輝さん(教育学部2年生)は「自分たちのスタイルを確立したい」と力強く宣言。今後の健闘を誓っています。

出雲キャンパス

[ガーデニングクラブ]



咲き誇る花のように可憐な笑顔のメンバーたち

植物の成長を楽しみに  
自然や友達と語り合う  
癒しのひととき

「看護棟の玄関口を綺麗に飾りたいね」と全メンバーで育てた花々が今春も可憐に咲き誇りました。

手入れは個々の自主性に任せ、当番制は設けていません。おかげで「みんなが植物の成長や変化に敏感になり、協力体制も強まるんですよ」と部長の川久保寛子さん(看護学科4年生)。

活動内容は幅広く、大学の附属病院が入院患者のリハビリの一環として行っている畑作業の手伝いも恒例になっています。「自然と触れ合えば、遊



チューリップの球根を育てるための花摘み作業

びやスポーツでは得られない爽快感やのんびりした空気に癒され、意欲も増しますよ」と副部長の石丸仁子さん(看護学科4年生)。

こうした効果をより多くの学生に体感してもらいたいとハーブティーのお茶会を催したり、ハーブ栽培を始めて、開拓精神にあふれています。次は大自然に飛び込みたいと新企画も温めています。



# 神話第四章を終えて

ヘッドコーチ(監督)と3人の外国人選手が交代し、大きな変貌を遂げた新生スサノオマジック。その船出となった「神話第四章」は、全52試合を11勝41敗と西地区10チーム中10位の成績で幕を閉じた。

オープン戦こそ2連勝と幸先のいいスタートを切ったものの、これまでセットオフェンスからの得点にこだわっていたチームが、新外国人選手トーマス・ケネディを中心とした個人技主体のバスケットボールに変貌。チームとしての危うさ、脆さを開幕戦から露呈してしまう。

シーズンを開幕7連敗からスタートし、早くもプレイオフ戦線から離脱。2月からハンソン新監督を招聘し、終盤に3連勝を飾るも、新規チームの奈良(9位)を下回る10位でシーズンを終えた。

## ファン感謝祭を開催！

シーズン終了後の4月29日、くにびきメッセでブースター(ファン)感謝祭を開催。会場には約400人のブースターが駆けつけ、シーズン中にはなかなか見られない選手のオフショットの部分に触れ、選手もブースターとのふれあいで精一杯感謝の思いを届けました。



神話第5章は7月から始まり、9月には早速オープン戦が県内2カ所で開催されます。8月から始まるチーム練習まで選手はしばし休息ですが、オフの間も県内各所に参りますので、イベント出演情報などは公式HPをチェックしてください。



島根スサノオマジックの最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866 (平日10時~18時)

### 島根大学支援基金寄附者一覧 ご協力ありがとうございました。

(平成26年3月1日~平成26年5月15日にご寄附いただいた皆様)  
(五十音順・敬称略)

冠寄附	小林 祥泰	学生市民交流ハウス基金 学生市民交流ハウスの運営・管理																												
個人からの ご寄附	大場 利信	河村 真紀	辻井 良啓	正木 洋治	岡村 茂	澤田 信一	富田 眞樹	山浦 真哉	沖谷 秀登	澁谷 拓郎	中井 康次	山崎 健治	芦田 弘志	小椋 賢一	鈴木 篤	西郡 賢一	山本 光志	荒木 尚武	尾古 清治	瀧本 裕隆	西村 健次	和田 有弘	石田 光雄	加藤 隆司	竹永 三男	藤田 幸治	伊藤 正人	金原 成広	調枝 勝幸	藤原 修

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ [http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund\\_recruit/](http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/)

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

投稿の  
お願い

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室  
TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019  
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp  
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

### PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「りんごジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。  
※応募締切/平成26年9月12日必着



### 編集後記

暖かな風が吹き、早くも夏を感じさせる季節となりました。皆さま、五月晴れに恵まれたゴールデンウィークは、いかがお過ごしでしたか。

私どもは本学のことをより多くの方に知っていただくため、5月3日から5日に広島市平和大通りで開催されたフラワーフェスティバルに、島根大学として参加してまいりました。歴史と伝統のある祭典に、県外大学初という形で参加できたことを非常に光栄に思っております。フラワーフェスティバルでの活動については今号で紹介しております。ご覧になっていただければ幸いです。

さて、私事ではございますが、今年の3月に香川大学を卒業し、今年度から島根大学の広報グループで働くこととなりました。未熟者ですが、魅力のある大学情報を皆さまに発信するために精進して参りたいと考えておりますので、これからよろしく願いいたします。

皆さまのお手元に届くのは夏頃になりますが、どうかお体にお気をつけてお過ごしください。



知的好奇心の旺盛なあなたへ



市民パスポート会員とは、  
年会費5,000円で  
どなたでも入会でき、  
以下のサービスを1年間  
ご利用いただけます。

# 島根大学 市民パスポート会員のご案内

島根大学は新しい学びなおしのスタイルとして、  
社会人のための市民パスポート会員を募集します。

## 市民パスポート会員向け講義についての 情報提供と受講

本学が実施する「公開講座」や正規の授業を地域の方に開放する  
「公開授業」及び「大学開放事業」に無料で参加できます。

## eラーニングなどのインターネットを用いた講義の聴講

本学が実施するWeb講義をインターネットを経由して無料で聴講できます。

## 広報しまだいの送付

本学が年4回(4月・7月・10月・1月)発行している、  
本学の教育、研究及び地域貢献活動についての  
情報を提供する「広報しまだい」をお送りします。



## 附属図書館の利用

- ①会員の方は、会員証の提示により、ご利用できます。
- ②本学が所蔵する図書を5冊(2週間)まで借りることができます。  
なお、研究室所蔵の資料、雑誌、AV資料、貴重資料等は貸出できません。

## 学生市民交流ハウス(松江キャンパス)の利用

本学の学生と地域の方々とのコミュニケーション及び交流する場として、  
松江キャンパス内「学生市民交流ハウス」を利用できます。

## 大学施設の利用

本学の施設(教室・体育館・野球場・テニスコート・陸上競技場・  
サッカー場等)を半額料金で利用することができます。  
ただし、会員が主催する催事で、本学が承認したものに限りです。

## 各種催事(国際交流、学生との交流など)への参加

会員を対象とした国際交流や学生との交流などの催事に無料  
(ただし、実費等が必要な場合があります)で参加できます。



【お問い合わせ先】

島根大学総務部総務課 市民パスポート会員担当

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL:0852-32-6603

E-mail: webinfo@office.shimane-u.ac.jp

詳細は島根大学ホームページの  
バナーからご覧ください。

<http://www.shimane-u.ac.jp/>

島大

検索